第３章　公共施設の景観形成を考えるうえでの手がかり

１　公共施設の景観形成上の役割

公共施設は、以下に示すように、その規模や立地、機能などにより特徴があり、施設ごとに異なる整備目的やコンセプトを有しています。それに加えて、施設ごとに景観形成の役割が異なるため、それを見極めてから、事業の進め方や整備手法を検討し、それぞれの条件や内容に適した創意工夫が求められます。

- 大規模な施設が多く、景観的な影響力が大きい
- 都市の骨格を形成している
- 空間的な機能や役割に永続性がある
- 老若男女を問わず、多くの人が利用する

２　景観形成を考えるうえでの５つの観点

景観は、まちを構成する自然、道路や建築物、遠くの山なみや海辺など、視覚で捉えられるまちなみや景色のことです。それは、その物を見る視点や見える範囲、見え方や人々の立場などによって異なります。

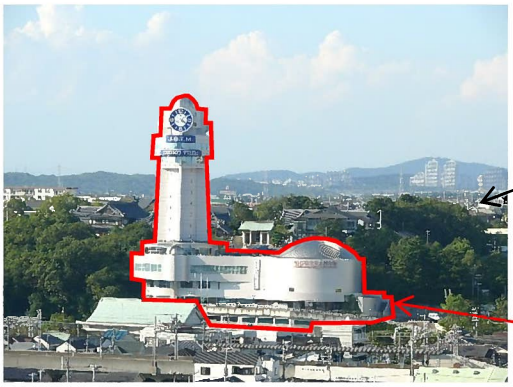
そこで、（1）見え方・構図、（2）視点・範囲、（3）空間構成、（4）時間、（5）立場・心境の５つの観点を理解することで、公共施設の景観形成を考える手がかりが見えてきます。

（１）見え方・構図

景観の見え方は、認識されにくいものとして「地」と認識されやすいものとして「図」に分類することができます。対象となる公共施設が、脇役となって「地」となるべきか、主役となって「図」となるべきかを見極める必要があります。そのため、脇役として目立たないようにするために風景のなかになじませるのか、主役として強調させるのかを考え、前者の場合は、目立たないようにデザインをすることが重要です。

- **「地」**・・・背景となるもの
- **「図」**・・・目立って認識されるもの

「地」と「図」の例



天文科学館

（２）視点・範囲

景観は、その場所を見る視点や、その場所から見える範囲によって、「近景（小景観）」、「中景（中景観）」、「遠景（大景観）」に分類することができます。対象となる公共施設が、周辺からどのように見られるのか、またその場所からどのようなものが見えるのかなど、視点や範囲を意識して検討することが重要です。

- **近景（小景観）**・・・建築物の外壁素材、広告物の文字、樹木の樹種などが把握できる範囲
- **中景（中景観）**・・・建築物や道路の連続したまちなみの雰囲気や樹木の樹種の違いなどが把握できる範囲
- **遠景（大景観）**・・・空と海が一体となった地域全体を俯瞰するような広がりが把握できる範囲

近景の例

景観形成地区　大久保駅南地区

中景の例

都市計画道路　駅前線

遠景の例

文化博物館からの眺望

（３）空間構成

景観は、その場所を構成する空間の特徴によって、「点」、「線」、「面」に分類することができます。対象となる公共施設にどのような特徴があるのかを把握し、その空間を構成するそれぞれの施設を一体的に整備するなど、施設間での連携やお互いの特徴に配慮することが重要です。

- **点**・・・ランドマークとなる建築物や交差点のようにまちのアクセントになるもの
- **線**・・・道路や河川のように長くつながるもの
- **面**・・・住宅地や田園、海岸のように大きく広がるもの

点の例

文化博物館

線の例

朝霧川

面の例

魚住市民センターからの眺望

（４）時間

景観形成を時間軸で考えた時に、「景観」づくりは１０年、「風景」づくりは１００年、「風土」づくりは１０００年の時間を要すると言われています。対象となる公共施設が、長い年月を経ても価値観を失わずに、次代へ引き継ぐことのできる良好な景観形成を目指すことが重要です。

- **景観１０年**　・・・天文科学館、大蔵海岸、オーズタウンなど
- **風景１００年**　・・・中崎公会堂、明石公園、市街地のなかにある田園やため池など
- **風土１０００年**・・・明石海峡を間に望む淡路島、近接している海と丘陵地など

景観の例

天文科学館

風景の例

大久保町松陰新田のまちなみ

風土の例

明石海峡を間に望む淡路島

（５）立場・心境

景観は、それを見る人の立場や心境によって、感じ方が異なります。その場所で生活している市民だけではなく、初めてその場所に訪れる来街者など、様々な人が良好な景観であると感じることが重要です。

- **市民目線**　・・・身近な環境や日常生活のなかで慣れ親しんでいる生活者の目線
- **来街者目線**・・・目の前の景観をありのままに捉え評価する目線

市民目線と来街者目線の例

市民わらし

明石公園

来街者わらし

３　景観形成を考えるうえで大切な１０の心がけ

公共施設の景観形成を考えるうえで、大切な心がけとして１０のキーワードを以下に示します。各公共施設の整備において、都市景観の基調となる良好な景観形成に向けた手がかりとして、どのキーワードを優先すべきかを確認し、それに配慮することが重要です。

（１）調和性

自然環境やまちなみになじむようにあえて目立たせないデザインとするなど、周辺環境との調和に配慮することが、風景のなかに溶け込んだ落ち着いた景観形成につながります。

大蔵海岸

緑道と王子公園

（２）統一性

施設内における構成要素にテーマ性を設けるなど関係性を保つことや、隣接する施設との空間において一体感を持たせることが、全体的にまとまった統一感のある空間形成につながります。

（３）連続性

公共施設の整備箇所を単体で考えるのではなく、施設自体及び周辺の緑や付帯施設などとのつながりに配慮することが、連続性のある空間確保につながります。

都市計画道路 林崎線

ふれあいプラザあかし西

（４）安全性

公共施設として良質なデザインであるとともに、利用しやすい公共施設として、機能性及び安全性を確保することが、利用者に安心感を与えることにつながります。

（５）参加性

施設の特性に応じて、計画、管理、活用を地域の人々などとともに進め、市民ニーズを的確に捉えることが、長く親しまれ、利用者に愛される公共施設につながります。

遊具のコンセプトづくりのための
小学校ワークショップ

都市計画道路 八木松陰線

（６）持続性

時間とともに深みの増す素材の選定や、施設デザインのコンセプトを維持管理の段階まで引き継ぐなど、時間経過やマネジメントを考慮することが、次代に引き継がれる公共施設につながります。

（７）地域性

形態や素材、色彩の選定にあたり、時間の積み重ねのなかで育まれた地域の歴史や地形などへの配慮や体現することが、その地域らしさが表現された景観形成につながります。

松江公園

朝霧南公園

（８）快適性

その場を訪れる人々が、居心地の良さを実感できるように、おもてなしの空間を創出することが、快適性の向上や魅力的な空間の創出につながります。

（９）デザイン性

積極的に質の高いデザインにすることや、長く飽きのこないデザインにすることを心がけることが、いつまでも親しまれる公共施設につながります。

大久保南小学校

天文科学館

（10）シンボル性

その地域の象徴となる場合は、シンボル性の高いデザインを施し、視点場からどのように見えるのかを意識することが、地域の景観資源の形成につながります。

４　色彩と配色を考える

公共施設の景観形成を考えるにあたっては、色彩は大きな影響を与えますので、特に周辺景観や地域特性を考慮したうえで、それらに配慮する必要があります。

そのため、各公共施設の役割を確認し、壁面や屋根、防護柵などの基調となる色彩については、できる限り落ち着いたものとし、周辺との調和に努めることが重要です。

（１）マンセル表色系

マンセル表色系とは、色彩を定量的に表すもので、「色相（いろあい）」、「明度（あかるさ）」、「彩度（あざやかさ）」の３つの組み合わせによって表現されます。

● 色相

その色が赤～黄～青のどの位置にあるのかを示しています。赤などの暖色系は暖かみを感じさせ、また、青などの寒色系は冷たさを感じさせます。一般的に建築物は暖色系が多いため、まちなかでのなじみやすさに影響を与えています。

● 明度

色の明るさを示すもので、明度がもっとも高いのが白で、もっとも低いのが黒となります。遠くから視認しやすいものとして、明度の対比が強い色彩が用いられますので、自然やまちなかなどの周辺環境に溶け込むためには、明度の対比を弱めることが重要です。

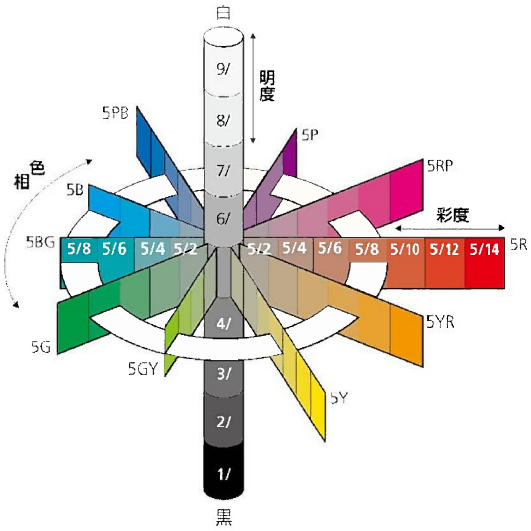


図３－１　マンセル表色系の色立体

● 彩度

色の鮮やかさを示すもので、彩度が高ければ鮮やかな色彩となります。彩度の高い色彩は、特に周辺から目立つため、主役となって目立たせるべきか、脇役として目立たせないべきかを考慮し、それぞれにふさわしい彩度を選択することが重要です。

なお、景観条例に基づき、大規模な建築物や都市景観形成地区内では、色彩に関する基準を設けています。

市営西二見小池住宅

景観形成地区　大久保駅南地区

（２）色彩と配色

公共施設の色彩や配色を考える場合は、その施設の配置や形態、方角などを考慮しながら、周辺環境とのバランスに配慮する必要があります。ただし、同じ色でも素材や材質などの違いによって、見え方も変わってきます。そのため、全体的な色彩計画として、以下に示すような内容を考慮することが重要です。

● **建築物以外**

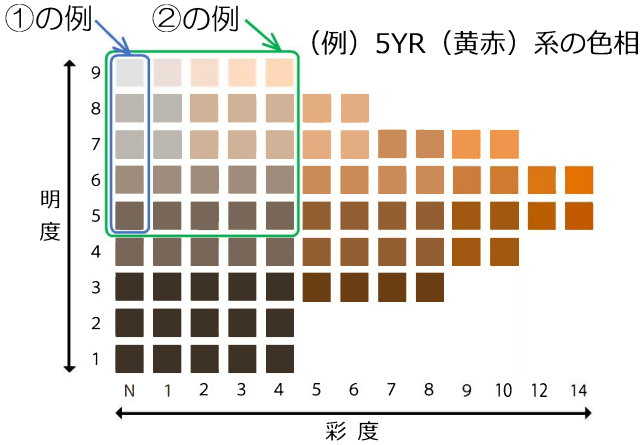
背景となる自然環境や周辺のまちなみと調和する以下の色彩を基本とします。なお、空の青や樹木の緑に無理やり合わせるための類似色はできる限り使用を避けることが必要です。

ただし、公園・緑地の遊具などの公園施設などは、子供が楽しく遊んだり、喜ぶような色彩を使用する場合もあります。

ＪＲ魚住駅

鳥羽の黒星池

（①クールグレーなどの中明度の無彩色
②明度が高く彩度が低い薄い色
③木材や石材などの自然素材の色）



③の例

図３－２　色彩の参考例

● **建築物**

周辺に圧迫感を与えないように暖色系の色相、低彩度の色彩を基本とします。まちなみの表情に変化をつける場合は、低層部に低明度の色、高層部に高明度の色を使用します。

また、アクセントカラーを使用する場合は、面積割合を考え、低層部や線的に取り入れるものとします。

あかし斎場旅立ちの丘

二見中学校